

平成23・24年度 多摩市教育委員会研究奨励校

多摩市立豊ヶ丘小学校

かかわり、つながりを大切に、考え実行する子どもの育成
～学校林、地域、食育からのESD～

あいさつ

多摩市教育委員会
教育長 清水 哲也

この度、平成23年・24年度多摩市教育委員会研究奨励校として、多摩市立豊ヶ丘小学校が2年間にわたる研究及び実践を積み重ね、成果を上げられて、発表の運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。

多摩市では、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズとして、持続発展教育(ESD)を重点事業として推進しております。豊ヶ丘小学校は、平成23年度より、「かかわり、つながりを大切に、考え実行する子どもの育成」を研究主題として、「学校林にかかわる活動」、「地域との主体的なつながりの構築」、「食育を通じた学習」の3つの取組を中心に、ESDの視点に立った教育活動を展開し、研究を進めてこられました。

本研究に精力的に取り組まれました小林佳世校長先生をはじめ、豊ヶ丘小学校の全教職員、また本校の研究に對しきめ細やかなご指導とご助言をいただきました東京学芸大学教職大学院特任教授 寺崎千秋先生、その他の講師の先生方、地域や保護者の皆様すべての方々に心から感謝を申し上げます、あいさつといたします。

考え実行する子どもとESD

東京学芸大学教職大学院
特任教授 寺崎 千秋

今、豊ヶ丘小でESDを学ぶ子どもたちが社会に出るころは、グローバル化、情報化、知識基盤社会が言説ではなく、激しく変化した社会そのものが現れているのではないのでしょうか。

2025～30年ごろには今日とは大きく異なる社会が出現するという予測が現実味を帯びるとすれば、子どもたちにそれに対応して生きる力、新たな社会を築こうとする意欲や築いていける力をつななくてはなりません。

ESDを視点にした教育の推進、学校づくりはまさにこのことに応えることです。それには、これまでの教師中心の与えて・させて・見回り・教え込む指導だけではなく、子どもの主体性をはぐむ「聞いて・助けて・見守り・任せる」学習指導が必要です。これが中核となる授業ができなくてはならないということです。

本校の先生方はこの2年間、学校を統合したことによる困難を乗り越えながらこのことにチャレンジし、自らの授業観や指導観の変容を目指してきました。このような学び続ける教師の指導・支援を得られる子どもたちは幸せです。

学び続ける教師とESD

多摩市立豊ヶ丘小学校
校長 小林 佳世

本校は、持続発展教育(ESD)を推進する多摩市の統合新校として、平成23年4月に開校いたしました。「実行する子」「思いやりのある子」「健康な子」を学校教育目標とし、特色ある教育活動にESDと健康教育を位置付け、学校づくりを進めてまいりました。

地域があり、子どもがいて、学校があります。多摩市の貝取・豊ヶ丘地区の北部を学区とする統合新校である本校の職員は、子どもたちの健やかな育ちを見守る皆様の学校への熱い思いを感じ、地域を学び直すところから教育実践を始める必要がありました。統合前から引き継いだ学校林や食育などの豊かな教育資源をESDの視点から改めて吟味することも欠かせないことでした。本校ならではの特色ある教育実践の追究に努めてきた2年間でありました。

これからの社会を担う子どもたちに身に付けさせなくてはならない力は、複雑な課題を乗り越え解決につなげる力です。そのための教師の役割を自覚した授業改善が開始いたしました。

結びに、多摩市教育委員会をはじめ、ご指導とお力添えを賜りました多くの皆様に心から感謝申し上げます。



○小学校学習指導要領
○多摩市
『2050年の大人づくり』

豊ヶ丘小学校教育目標
○実行する子
○思いやりのある子
○健康な子

○児童の実態
○保護者・地域の願い
○現代社会の要請(東日本大震災後)

研究主題「かかわり、つながりを大切に、考え実行する子ども」
～学校林・地域・食育からのESD～

答えのない問いに向き合う生き方を目指して
持続可能な社会づくりにかかわる課題を見出し、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける

目指す児童像

低学年	中学年	高学年
周りの自然や友達とかかわることを楽しみ、自然の様子・変化に気付いたり、相手の気持ちを考えたりしながら、自分の思いや願いをもち、やってみようとする子ども	身近な自然や地域に興味・関心をもち、働きかけて気付いたことや様々な意見を大切にしながら、自分の考えで実行する子ども	身近な自然や社会と積極的にかかわり、互いにつながり合っていることを実感しながら、主体的に考え実行する子ども

研究の内容と方法

(1)生活科・総合的な学習の時間の単元開発
学校独自のカリキュラム構成

(4)問題解決的な学習の重視
*リーフレットP4

(2)ESDカレンダーの作成・活用・改善
教科等との関連
*リーフレットP6～P7

(5)交流の重視
◆地域教育資源の活用
◆外部人材の活用(豊ヶ丘小マンパワーリスト)
◆家庭との連携

<豊ヶ丘小の交流の定義>
①「学ぶ仲間との話し合い/学び合い/認め合い」として→それぞれが主体的に立てた課題(考え)を尊重し、合意形成に向けた姿
②「異学年/地域の人/識者・専門家」との出会い(体験的交流)→知識や情報の伝達だけではなく体験としての人とのかかわり

(3)「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み(国立教育政策研究所)」の活用

<持続可能な社会作りの構成概念>
I 多様性 II 相互性 III 有限性、IV 公平性 V 連携性 VI 責任性

<ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度>
① 批判的思考 ② 予測し計画する力
③ 多面的、総合的な思考 ④ コミュニケーション力
⑤ 協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

(6)ファシリテーターとしての教師の役割
◆聞いて 助けて 見守り 任せる 学習指導 中核の授業づくり
① テーマや課題対象にじっくり向き合えるように工夫する働き
② これまでの体験や既習事項、意見や考え方を関連付けられるようにする働き
③ 意見や問題・疑問を整理し、考えを深められるようにする働き

<学校林>
・授業での活用
・遊びの場
・保全活動
・保護者や地域、専門家との連携 他

<地域>
・どんど焼き
・地域の行事
・コミュニティセンター
・図書館・児童館 他

<食育>
・野菜・米・麦等の栽培と収穫の喜び
・おやつ 自己選択力
・栄養教諭との協力 他

持続可能性に向けて取り組む社会・生活の様々な工夫

エコプロダクツ 地域各施設 パルテノン多摩 都立埋蔵文化財センター 多摩市国際交流センター
ユネスコ・アジア文化センター 多摩市まちづくり専門家会議 各小中学校 幼稚園 保育園 大学

かかわる つながる 子どもたち



4年「このまじや大変だ！大切にしよう！私たちの地球」

教科の学習を発展させ、自分たちが考え実践した地球に優しい暮らし方を、身近な人や地域の人に発信しました。



5年「ネイチャー フューチャー マルムンジャー」

自分の食生活をふり返ったり、日本の食の問題を取り上げたりして、自分が今できること、これからみんなで取り組むことについて考えました。



6年「多摩の過去と未来にタイムスリップ！」

多摩を作ってきた人々の営みを調べることで、郷土とのつながりを意識し、「次は自分が作っていく番だ」という気持ちを高めました。



1年「あきとあそぼう」

生活を豊かにしている地域や学校林の自然と思う存分遊ぶことで、進んでかかわろうという気持ちを高めました。



1・2年「がっこうたんけん」

学校の一員としての自覚を深め、異学年とかかわる楽しさを実感し、学校生活への意欲を高めました。(1年) 学校生活を支えてくれる存在に気づき、人とのつながりを大切にしながら生活するようになりました。(2年)



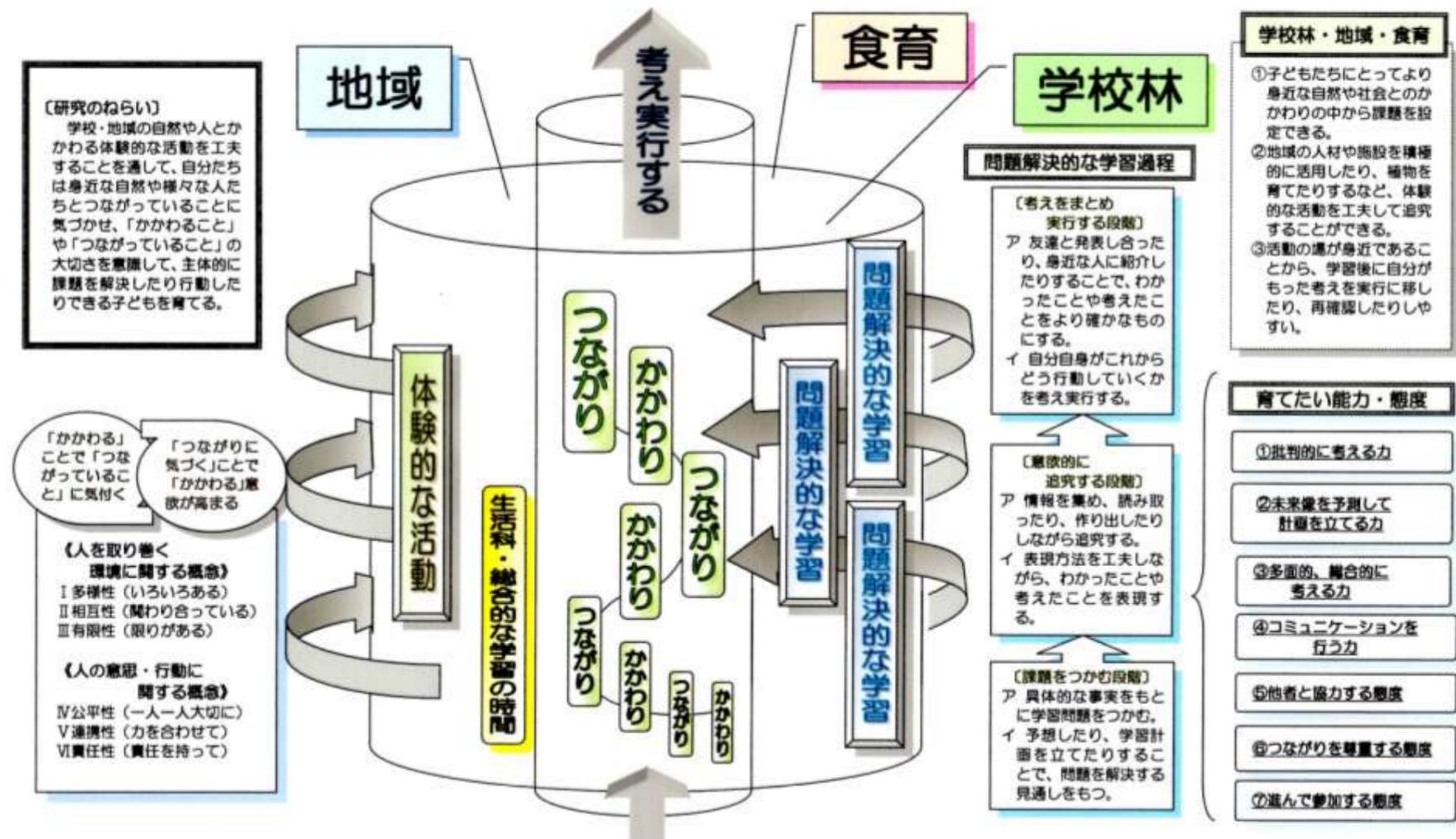
3年「われら地いき盛り上げ隊！」

地域の人とつながる大切さに気づき、自分で工夫しながら進んで地域の活動に参加しました。

多摩市立豊ヶ丘小学校 研究構想図

＜ 目指す児童像 ＞

身近な自然や社会と積極的にかかわり、互いにつながり合っていることを実感しながら、主体的に考え実行する子ども



4年 ESDカレンダー (学校林・食育・地域とのかかわり)

【ねらい】 地域や自然とかがわりながら、学校や地域の自然・人とのつながりに気付かせるさまざまな体験活動を工夫し、その「かがわり」や「つながり」の大切さを意識させることで、持続可能な社会作りについて考えようとする能力や態度を育てる。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	調べたことを報告する文章を書こう		だれもがかがわりあるように/意義の仕方			アップとルーズで伝える			聞き取りメモの工夫			
算数	大きい数のしくみ		折れ線グラフ					縦軸の表し方				
社会	住みよいらしきまもる(ごみ・水)		人々のくらしのつながり(昔のくらしのくらしのつながり・暮らしの発展につなぐ人々)						伝統や文化をいかすまち			
理科	季節と生き物(春)・(夏)・(秋)・(冬)・(春のおとずれ)											
総合的な学習の時間	学校林で遊ぼう(3)		このままだよ大冒険! 大切にしよう! 私たちの地球			東東に向かって、小さな一歩をふみ出そう(4.5)			探検します! 私たちができること			
特別活動	CO2削減アクション月間(6)		CO2削減アクション月間(6)			エコロダザツ2012(6)			10才をお祝いしよう			
道徳	生命尊重		動物		自然愛		愛国心・国際理解		共に暮らす		心豊かに暮らす	
音楽	心を合わせて表現しよう(合唱・音楽)											
図工	作品制作により「友だちの作品を見て話そう」											
体育	体力をほかり自分の体をパワーアップ						育ちゆく体とわたし					

5年 ESDカレンダー (学校林・食育・地域とのかかわり)

【ねらい】 児童と学校や地域の自然とのつながりに気付かせるさまざまな体験活動を工夫し、その「かがわり」や「つながり」の大切さを意識させることで、持続可能な社会作りに向けた能力や態度を育てる。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	筆者の考えをよめ、自分の考えを整理しよう		活動や報告する文章を書こう			自分の考えをまとめて対話しよう			理由づけを明確にして説明しよう			
算数												
社会	わたしたちの生活と環境		わたしたちの生活と環境			わたしたちの生活と環境			わたしたちの生活と環境			
理科	生命のつながり(動物・人のたんじょう)		生命のつながり(動物・人のたんじょう)			生命のつながり(動物・人のたんじょう)			ジャガイモ植え			
総合的な学習の時間	1粒が手紙に(田植え、水管理、鳥よけ、稲刈り、脱穀、もちつき)		小農を育てて多摩そばを作ろう			小農を育てて多摩そばを作ろう						
特別活動	①学校林について考えよう(20)		CO2削減アクション月間			グリーンカーテン製作			どんどこ			
道徳	ごしてびらを育てよう		わたしの心のアルバム(郷土愛・愛国心)		結実の喜び		おしろい花の種は、ぼくの心の中に(郷土愛・愛国心)		もったいない(自然愛・環境保全)			
図工	「きぼうのて」作品を見て話そう		「きぼうのて」作品を見て話そう			「きぼうのて」作品を見て話そう			「きぼうのて」作品を見て話そう			
家庭	家族を考えた食卓		調理の基礎			調理の基礎			調理の基礎			
英語	世界のいろいろな言葉で		好きなものを伝えよう			好きなものを伝えよう			好きなものを伝えよう			
音楽	心を合わせて表現しよう(合唱・音楽)											
体育	体力をほかり自分の体をパワーアップ											

6年 ESDカレンダー (学校林・食育・地域とのかかわり)

【ねらい】 児童と学校や地域の自然・人とのつながりに気付かせるさまざまな体験活動を工夫し、その「かがわり」や「つながり」の大切さを意識させることで、持続可能な社会作りに向けた能力や態度を育てる。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	生き物はつながりの中に		伝統文化を楽しまよう			島へ			海の命			
算数												
社会	日本の歴史		日本の歴史			政治の動き			世界の中の日本			
理科	植物の成長と日光や水とのかかわり		生物とそのかんきょう			生物とそのかんきょう			生物と地球のかんきょう			
総合的な学習の時間	ジャガイモを収穫しよう②		多摩の過去と未来にタイムスリップ!			多摩の過去と未来にタイムスリップ!			多摩の過去と未来にタイムスリップ!			
特別活動	CO2削減アクション月間(6)		CO2削減アクション月間(6)			CO2削減アクション月間(6)			CO2削減アクション月間(6)			
道徳	古きよき心(郷土愛・愛国心)		いのちのまつり(生命尊重)		なぜ熱えるのか(国際理解)		なぜ熱えるのか(国際理解)		世界がもし100人の村だったら(国際理解)			
図工	「きぼうのて」/八戸に手紙を書こう		「きぼうのて」/鳥野野営舎			「きぼうのて」/海外に発信しよう			「きぼうのて」/海外に発信しよう			
家庭	家族を考えた食卓		家族を考えた食卓			家族を考えた食卓			家族を考えた食卓			
英語	季節の行事を伝えよう		できることを紹介しよう			できることを紹介しよう			できることを紹介しよう			
音楽	心を合わせて表現しよう(合唱・音楽)											
体育	体力をほかり自分の体をパワーアップ											

《研究の成果と課題》

成果

- 生活科と総合的な学習の時間を、「子どもたちが作り出す学習」へと支援することによってESDが重視する能力・態度に無理なく迫ることができた。
- 問題解決的な学習を推進するファシリテーターの教師の具体的な方策を設定したことにより、子どもが中心となる活動へと展開することができた。
- 「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み(国立教育政策研究所)」とESDカレンダーを活用することによって、学校全体の教育活動のつながりから、ESDへと迫ることができた。
- さまざまな交流活動を設定することで、子どもたちが主体的活動を展開し、課題意識を深め、工夫して実行することができた。
- 児童アンケートを1・2年次で比較したところ、持続可能な社会づくりにかかわる課題についての意識を深めている児童が増えた。

課題

- 子どもの活動を価値付けるためには、教師が予めESDの課題に対する意識を深め、小学生の発達段階を十分考慮したESDとして価値付けるべき子どもの活動を教師がつかんでおくことが必要である。
- ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の設定方法を実践的・継続的に検証する校内体制をつくり、データを蓄積しながら、具体的に児童の活動をどのように評価するかの方法論を研究する必要がある。

こんにちは
私たちは日本の東京都豊島区
豊島小学校の6年生です
私たちは東日本大震災で被害を受けた東北の皆さんに元気を取り戻して欲しいと、
「きぼうのて」という写真の作品を作りました。ぜひこの作品を見て下さい。そして何か感じて欲しいです。

きぼうのて

平成23年度の5年生は、東日本大震災の被災地の子どもたちと写真を通して心をつなぎました。

＜ご指導いただいた先生方＞

東京学芸大学教職大学院特任教授	寺崎千秋 先生	多摩市教育委員会参事	川島清美 先生
一般財団法人教育調査研究所研究部長	向山行雄 先生	多摩市教育委員会統括指導主事	石井正広 先生
帝京大学教職大学院教授		多摩市教育委員会指導主事	中谷 愛 先生
国立教育政策研究所		多摩市教育委員会指導主事	三田暢夫 先生
教育課程研究センター基礎研究部長	角屋重樹 先生	多摩市教育委員会指導主事	山崎智明 先生
多摩市立第一小学校長	棚橋 乾 先生		
多摩市立東愛宕中学校長	富田 広 先生		

＜研究に携わった教職員＞

校長	小林 佳世	副校長	新貝 朗	◎研究主任	◎研究推進委員
低学年	主任教諭 横井 明子(1年)	教諭	伊藤 正剛(1年)	教諭	平向 直樹(TT)
	教諭 半杭 貴子(2年)	教諭	根岸由里子(2年)	主任教諭	小汲 智子(音楽)
中学年	主任教諭 佐原 紀子(3年)	教諭	宮原 千明(3年)	◎栄養教諭	早乙女理恵
	◎主幹教諭 井戸しのぶ(4年)	教諭	土屋 直貴(4年)	◎主任養護教諭	野田富美代
高学年	◎主幹教諭 木村 伸之(5年)	教諭	宇田 圭佑(5年)	◎主任教諭	柴崎 裕(図工)
	◎主任教諭 新色 裕隆(6年)	教諭	櫻井 知美(6年)	◎教諭	近藤里恵子(算数)
	非常勤教諭 上野 正彦	教諭(育休)	宮野 優子	事務主任	佐藤美知子
	用務 平原 賢三	学校図書館司書	望月佐知子	非常勤事務	笹倉美智子
	ピティナー 永井 明代	ピティナー	山藤 心み	都講師	佐藤 陽子
	都講師 栗山 博子	都講師	佐藤 裕行	相談員	平岩 正夫
23年度	主任教諭 星野 早苗	主任教諭	石田 隆彦	教諭	佐藤 陽子
				ピティナー	米田 梢